

私は、今回の東大企業大学訪問を経て学んだこととしてどれか選んで書こうと思いましたが、すべて良い内容だったので、すべて書こうと思います。

ディレクトフォースでのディスカッションをして感じたことは、全ての人において経験が一番大切であることです。遠藤 恭一様のお話の中に、西洋と日本の教育の違いを教えてくださいました。日本の教育は、 $(3) \times (4) = ()$ のように、一つの答えしか出せないのだが、西洋の教育は、 $() \times () = (12)$ のように、複数の考えがあって良く、質問を受けた時、すぐに返答できない人は淘汰されていってしまうということを教えてくださいました。経験が無ければ自信は付かないと言われたことで、何事も挑戦してみなければならぬということを学びました。また、自分は英語が苦手な海外に出た時コミュニケーションがとれるか心配で、怖いというイメージがあるのですが、それはどう解決すればいいですかという質問をしました。その回答として、まずやってみなければわからない、失敗を恐れるのは当然だが怖いと思うのは自分に自信を持っていないからだという回答をいただきました。それを聞き、自分は大会などで勝てないのはなぜかと悩んでいました。その結論がこの機会ではつきりました。それは、練習はしていてもそれをやった結果自信がつくほどに出来ていない、足りないということがわかりました。勉強やこれからの社会についてのアドバイスだけでなく、ぜんぶにあてはまるのだとおもいました。また、国際エネルギー機構の会長のお話で発電など、エネルギーについてのお話をいただきました。お話の中に原子力発電についてがありました。3・11の震災を受けて日本の原子力発電の基準は世界一であり、それを達成するのはほぼないくらいの安全性だとわかりました。現在でも、原子力発電反対デモが起こる中、日本の基準はとても高いことがどれだけ知られているのかという疑問もいただきました。自分は原子力発電は、反対ですが今原子力発電がなくなって電気がなくなった生活に耐えられるかと聞かれたらそれはできないと思います。被災地の人々は事故による恐怖を知っているため、反対するのはわかります。そのため、自分ができることはすくないですが、周りの人たちにそのことをおしえたり、将来就きたいと思う工学系の職業で、それについての研究をしたりと、みんなが安心できる発電所を考えてみたいと思います。そして、それを達成するために、今の勉強、例えば物理や数学のように理系に進むための勉強だけでなく、現代国語や古典、政治・経済などの文系科目も怠らずにやることで、どんな分野にも対応でき、将来のはばをひろげられるとおもいます。そして、ディレクトフォースの皆さんのように、社会貢献できるような人材になりたいと思いました。人生の先輩方にそれぞれの経験談を教えてくださいましたことにより、自分達が将来的に心がけるべきことを知ることができました。

企業訪問では、東京工科大学の知性材料工学研究室の教授、三田 俊裕様を訪ね、形状記憶合金について詳しく教えてくださいました。私たち一年生は、まだ化学の授業を受けていないため、原子構造などを理解できていませんでしたが、細かく分かりやすい説明で形状記憶合金について詳しくなることができました。形状記憶合金には、超弾性性質というのがあり、皆さんが知っているような眼鏡のフレームに使われる性質で、ある一定の強さ、長さまでは、疲労という金属が耐えうる限界に到達せず、熱を与えると元の形に戻るといったものです。それを使った家電として銭湯や、温泉などで見かける温度の調整機能などがその一例です。それは形状記憶合金のばねと通常のばねでしきりをはさみ、温度によってしきりを移動させて温度を調節させるというものです。形状記憶合金について完璧に理解するには、化学の授業で基本的な事項を理解してからでないといけないとわかりました。このような知らなかった内容や、知識をえらえた経験はこれまでありませんでした。新しいことを知って基本の大切さや、それをしっかりと理解して応用できるようにならなくてはいけないと思いました。

東京大学オープンキャンパスでは、工学部の見学に参加しようと思ったのですが、申し込みが間に合わず友達の行く予定になっていた教育学部の当日参加授業に行きました。授業の内容は、生涯教育についてで、まちづくりから教育をした結果についてと、そのメリットについての発表でした。私は、教育学部というのは、学校の先

生になるために授業の仕方や生徒への関わり方などを学習して、最終的なゴール地点は教師になることだとおもっていました。この授業を受けて一概に教育といえども、勉強を教えることだけが教育ではなく、日々の生活などの中でどのような生き方をするのが良いかなど町の規模で実験したりすることも教育学の一部であると知りました。また、今回見ることのできなかつた工学部などの理系学部に自分で時間を作って参加し、他の面での東大も改めて見ていたいとおもいました。

仙台二高 OB、OG との懇談会では、一橋大学の先輩は、東大の先輩たちがいる中、堂々としており、かっこいいとおもいました。また、文系大学としてのメリットや如水会についておしえていただきました。如水会は、各業界の社長や、責任者たちの集まりで、自分が起業したい内容ややってみたいことを相談したりすると、それに携わる人を紹介してもらえたりするそうです。また、東大は政界や全体的な面でのリーダーを育成しているが、一橋大学は、社長などの重役となる人を育成する学校ということをおしえてもらいました。東大の先輩で、現在は法学部だが、入学当時は理科 1 科の先輩は、東大のメリットについて教えてくださいました。東大は、入学した時の学部縛られず、点数を持っていれば理転や文転学部変更が可能ということでした。その先輩は、最初化粧品などの研究をしようと理科 1 科に入学したが、自分は向いていないと思い、弁護士となるため法学部に学部変更したそうです。また、勉強の仕方についての質問をしたところ、目先のテストで点数を取るというアドバイスを受けました。また、私は成績が悪く勉強する際のアドバイスを聞いたところ、とりあえず苦しくても勉強し、成績が上がってくれば楽しくなってくるというアドバイスを受けました。その域に達せるようにこれから精進していこうと思いました。東大の先輩たちに共通しているのは、自分の勉強方法を見つけて効率を上げ、必要なもの理解するだけでいいものの区別をしっかりと判断できるようになりたいと思いました。

これらのことで、私が学んだことは、何事にも経験が多いことは武器となり、失敗を恐れてはいけないということです。一つの見方に偏らず多方からの視点で物事を考え行動する行動力が必要だということも学びました。また、遠くを見過ぎて恐れや、不安で立ち止まるのであれば、近く簡単な目標を達成しようと思いました。さらに、恐れが生まれにくいらい勉強や、部活に打ち込み、自信を持って日々生活していきたいと思いました。

そして、最後にこのような企画に参加して、たくさんのことを学ぶ機会を作っていただいた先生方、ディレクターフォースの皆様、仙台二高 OB、OG の皆様、東京工科大学の皆様へ感謝したいと思います。